

Rock on Green!

2026年4月期 第1四半期 決算説明資料

2025年9月9日

株式会社グリーンエナジー&カンパニー



証券コード1436

株式会社グリーンエネルギー&カンパニーから投資家の皆さまへ

再生可能エネルギー市場は未来の世界的産業です。

欧米中と比較して市場形成が遅い日本市場も、これから各社の参入・形成が進みます。



当社の思想である「個人参加型持続可能エネルギー社会」に

共鳴いただける仲間（カンパニー）と共に、

日本の再生可能エネルギー市場における代表的プレイヤーとなることに照準を置いています。

中期経営計画「Green300」進行状況

- 「開発数最大化」戦略の元、Non-FIT開発区画数は前年対比約2.5倍と伸長を継続
- 新注力事業の系統用蓄電池は案件進行が加速、1 GWh長期開発計画も発表
- 当期は組織体制の強化と生産効率の追求を継続的に実施

26年4月期第1四半期実績

- 売上高、売上総利益は増収増益（前年同期比売上140%、粗利120%）で過去最高額を達成
- 棚卸資産の適正化を図り財務の安定性を意識した経営を継続

1. 26年4月期第1四半期決算概要 … P. 5
2. 中期経営計画 Green300
（25年4月期- 29年4月期）の進捗 … P. 21
3. Appendix … P. 27

1

26年4月期第 1 四半期決算概要

2026年4月期 第1四半期 連結業績概要



売上高から当期純利益まで前年超えで推移、
(売上高141.8%、売上総利益120.1%とともに過去最高額を達成)

(単位：百万円)	25年4月期 第1四半期 (連結)	売上対 構成比	26年4月期 第1四半期 (連結)	売上対 構成比	対前年同期比	26年4月期 第2四半期 (累計)計画	対計画比
売上高	1,979		2,807		141.8%	5,300	53.0%
売上総利益	523	26.5%	629	22.4%	120.1%	—	—
販売費及び一般管理費	540	27.3%	623	22.2%	115.2%	—	—
営業利益	▲ 17	—	5	0.2%	—	200	2.9%
経常利益	▲ 23	—	▲ 6	—	—	150	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲ 15	—	▲ 10	—	—	100	—

・ 太陽光発電施設・
ネットゼロエネ
ルギーハウス共に
販売好調

・ 人員増強
・ 系統用蓄電池事
業への先行支出
の増加

2026年4月期 第1四半期 事業領域別の状況



太陽光発電施設、ネットゼロ・エネルギー・ハウス共に販売好調

(単位：百万円)	売上高	前年同期比	営業利益 ※	前年同期比
フロービジネス	2,528	147.9%	100	116.0%
太陽光発電施設 当期販売区画数34.94区画（前年同期50.74区画）	781	131.1%	4	12.3%
ネットゼロ・エネルギー・ハウス 当期販売棟数62棟（前年同期45棟）	1,746	157.0%	95	203.4%
ストックビジネス	279	103.3%	62	103.2%
O&M※事業及び発電事業 当期管理件数1,908件（前期末1,893件）	279	103.3%	62	103.2%
合 計	2,807	141.8%	162	110.8%

・1Q計上案件の利益率のブレが生じるも、通期計画数値への影響は無

※ O&Mは、太陽光発電施設等のオペレーション&メンテナンス（施設の維持管理）をいいます

※ 営業利益は共通経費配賦前になります

2026年4月期 第1四半期 連結貸借対照表

これまでの拡大方針に加え、財務基盤の強化として棚卸資産の回転効率を強化

(単位：百万円)	25年4月期 期末	26年4月期 第1四半期末	対前年期末 増減額
流動資産	11,249	11,703	453
現金及び預金	979	1,563	584
棚卸資産	7,515	6,980	▲ 535
その他	2,755	3,159	404
固定資産	2,307	2,904	597
資産合計	13,557	14,608	1,050
負債	8,254	9,365	1,111
有利子負債	5,757	6,887	1,130
純資産	5,302	5,242	▲ 60
自己株式	▲ 144	▲ 144	—
負債・純資産合計	13,557	14,608	1,050

回転効率の向上と財務基盤の強化を図り
棚卸資産が減少

ストック事業用資産の取得増

転換社債 8 億円等により調達

2026年4月期 連結業績予想

売上高は過去最高額140億円（対前年比120%）を目標、6期連続増収・2期連続増収増益を目指す

（単位：百万円）	25年4月期 実績	26年4月期 予想	対前年比 通期
売上高	11,616	14,000	120.5%
営業利益	543	700	128.9%
経常利益	408	520	127.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	275	380	138.2%

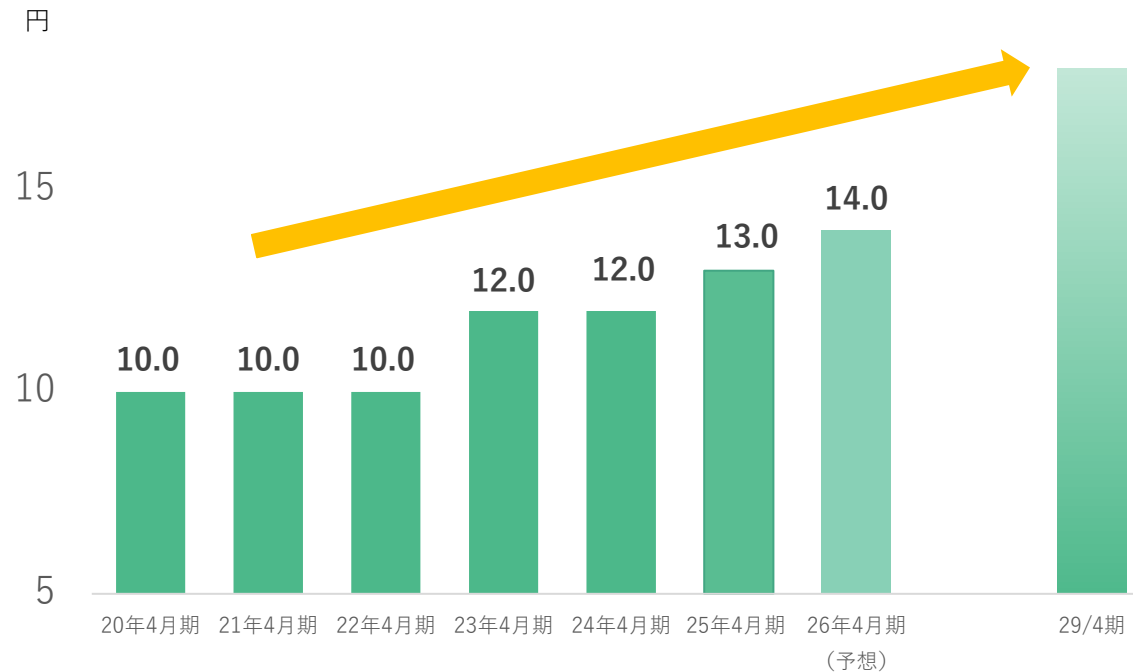
• 主力の太陽光発電施設、ネットゼロエネルギーハウスに加え系統用蓄電所で当期も前年比120%成長を目指す

• 開発強化や各種先行投資を図り営利率5%水準を目論むが、並行して生産効率改良にも取り組み、来期以降の営利率改善を図る

累進配当と株主優待の両面で高い株主還元を実現

配当性向

累進配当で長期的増配を目指す
配当性向は15%を目指す



株主優待

デジタルギフト
30,000円

対象：300株以上保有株主
6ヶ月以上の保有

4月末・10月末各時点
15,000円分

系統用蓄電所 2029年4月期までに1,000MWhの開発目標を設定



系統用蓄電所



開発・施工目標

2029年4月まで
累計 1 GWh
(1,000MWh)

開発目標における詳細な情報や数字の開示は
1年程度の事業推進を経たうえで検討致します。

系統用蓄電池へ高い目標を設定、今後の注力事業として一層の強化を推進

事業活動トピックス：系統用蓄電池事業の実績とパイプライン



26年4月期の開発・施工物件は順調に進行、開発件数もさらに増加。

開発・施工（実績）

物件所在地	定格容量	完成時期
鹿児島県霧島市	8MWh	2024/6月
千葉県印西市	8MWh	2025/3月

開発・施工（予定）

物件所在地	定格容量	完成予定時期
大分県宇佐市	8MWh	2026年
栃木県佐野市	8MWh	2025年
長野県上田市	8MWh	2026年
徳島県吉野川市	8MWh	2026年
和歌山県有田郡広川町	8MWh	2026年
京都府綾部市	8MWh	2026年
京都府福知山市	8MWh	2026年
宮崎県串間市	8MWh	2026年

系統用蓄電池事業の拡大を継続強化

事業活動トピックス：系統用蓄電池 実機見学会＆セミナーを開催



4月11日・5月20日、千葉県印西市にて実機見学会を開催



注力事業である系統用蓄電池の組成が順調に進捗

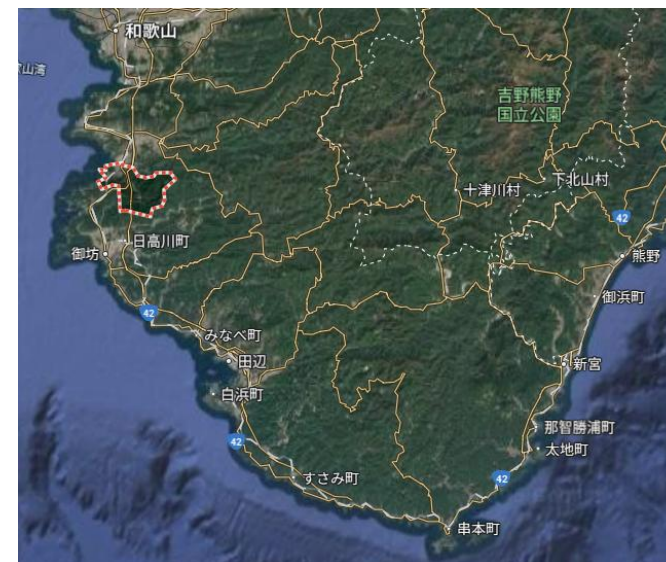
事業活動トピックス：系統用蓄電池 工事受注 続伸

6/10 和歌山県有田郡系統用蓄電池施設の工事受注を獲得



<本受注概要>

案件名	系統用蓄電所建設
設置場所	和歌山県有田郡広川町
定格出力	2MW
公称容量	8MWh



(google mapより引用)

注力事業である系統用蓄電池の組成が順調に進捗

事業活動トピックス：転換社債及び新株予約権による資金調達実施



転換社債及び新株予約権を発行し総額12億円の調達、拡大する系統用蓄電池開発へ投下



シンプレックス・キャピタル・PIPEs 投資事業有限責任組合 1 号

第1回無担保転換社債型
新株予約権付社債
調達額8億円

第7回新株予約権
調達額4億円

シンプレックス・キャピタル・PIPEs 投資事業有限責任組合 1 号	
無限責任組合員	シンプレックス・キャピタル・インベストメント株式会社
有限責任組合員	株式会社地域経済活性化支援機構、株式会社横浜銀行、株式会社静岡銀行、国内大手企業年金

系統用蓄電池の開発進行への財務基盤を強化

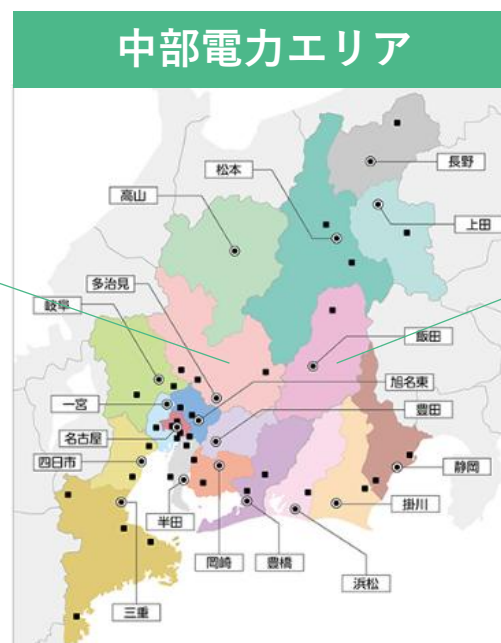
事業活動トピックス：太陽光発電施設 中部電力管内大口包括契約



中部電力管内においても主力の太陽光発電施設の大口包括契約を複数獲得



**関西電力設立ファンド
出資SPC**
中部電力管内
50 MW
～2029年3月



(中部電力サイトより引用)

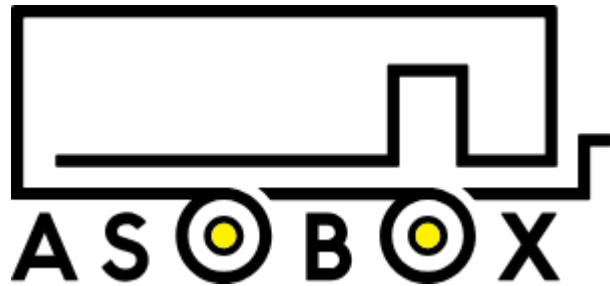
**ENEOS
リニューアブル・
エナジー**
中部電力管内
低圧バルク 5 MW
～2026年

引き続き当社の開発力を全国へ拡大推進

事業活動トピックス：オフグリッド型ASOBBOX販売開始

電力と水を完全に自給自足するオフグリッド型トレーラーハウス
「ゼロインフラASOBBOX(アソボックス)」を発表

GreenEnergy | Life
& Company



業界でも注目度が高く多数のお問い合わせや商談依頼を獲得

企業活動トピックス：18期経営計画発表会＆社員総会を開催

5月13日、グリーンエネルギー＆カンパニーグループ
「18期 経営計画発表会＆社員総会」を開催



前期活躍した社員を讃え、新たな今期に向けた経営計画を発表

企業活動トピックス：NIKKEI GX会議に参画

昨年度のNIKKEI脱炭素プロジェクトに続き、今年度はNIKKEI GX会議に参画します



NIKKEI GX会議HPより引用
https://ps.nikkei.com/gx_con/#conference

NIKKEI GX会議

NIKKEI 脱炭素プロジェクトから
NIKKEI GX会議へ

「NIKKEI GX会議」は、温室効果ガス排出削減を成長機会につなげるグリーン・トランスフォーメーション（GX）に先進的に取り組む企業と有識者、政府関係者らが集うプロジェクトです。刻々と変わる社会情勢やトレンドを学びあい、GXを推進するために議論を重ね、その内容を広く発信していきます。

2021年春に立ち上がった「NIKKEI脱炭素プロジェクト」を発展させるかたちで、2025年春にスタートしました。



2025年5月27日開催 キックオフ会議

エネルギー問題をはじめ、様々なGX関連の取り組みにおける提言を社会へ発信

企業活動トピックス：グリーンエナジー大学 本コース開講



グリーンエナジー大学の本コースが開講、受講がスタート



共通コース	全受講生が基礎的な知識とスキルを習得するための必修コース。 全受講生が共通する基礎知識を身につけ、 各自の専門性を高めるための土台を構築します。 ●DX基礎 ●マーケティング基礎 ●GX基礎 ●その他の基礎科目
専門コース	共通コース修了後、各分野の専門性をさらに深めるための専門コース。 各領域に特化した実践的なスキルを磨くためのカリキュラムであり、 社員がそれぞれの専門分野で即戦力となるための知識と実務能力を習得します。 ●ビジネス開発（営業・企画）コース ●コーポレートコース ●IT、AI、データ分析 コース ●GX（Green Transformation）コース

実践型カリキュラムにより市場性の高い知見・技量を社員が習得できる環境を推進

2

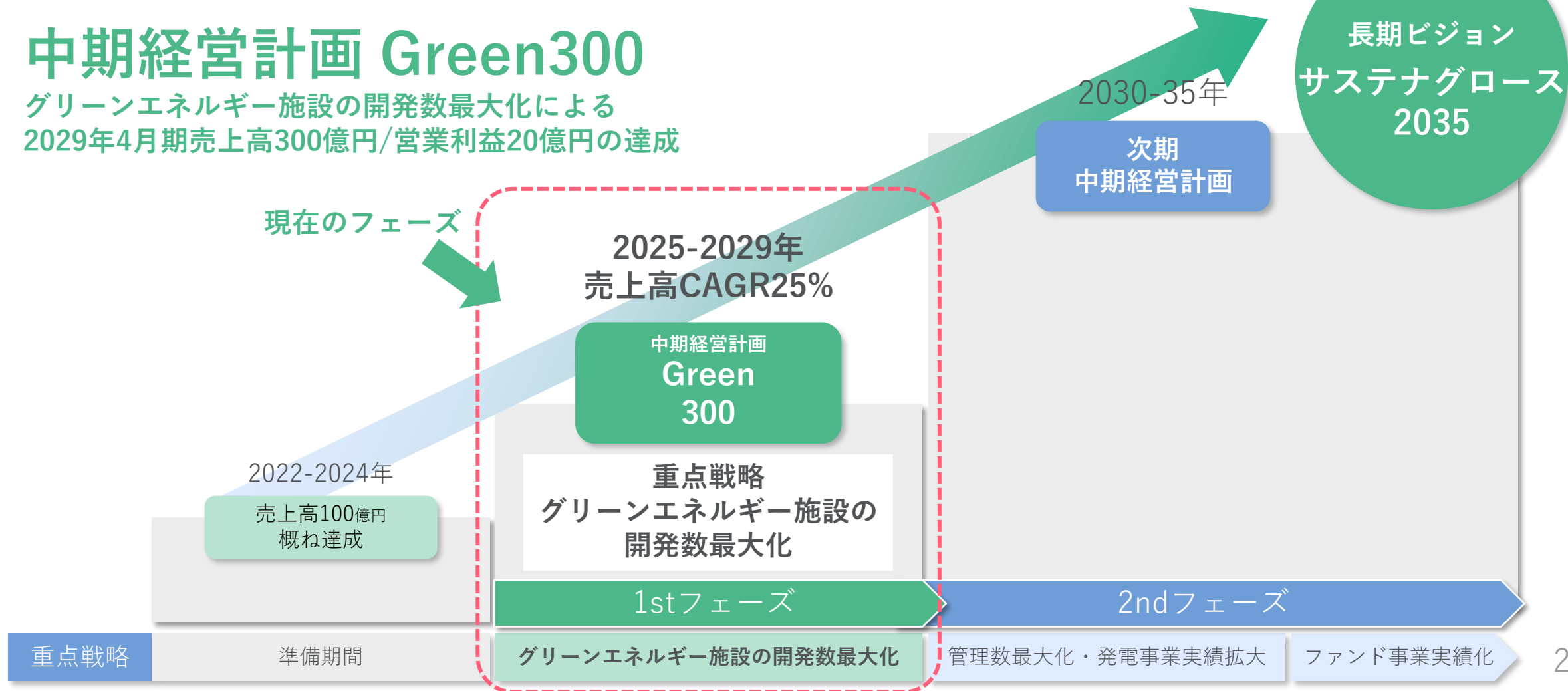
中期経営計画 Green300 (25年4月期- 29年4月期) の進捗

中期経営計画 Green300（25年4月期- 29年4月期）の位置づけ

- 株式会社Green Energy & Companyとして新たに、長期ビジョン サステナグロース2035の1stフェーズとして、5か年計画の中期経営計画Green300を策定します。

中期経営計画 Green300

グリーンエネルギー施設の開発数最大化による
2029年4月期売上高300億円/営業利益20億円の達成



現在進行中の戦略：開発数最大化

- 2024年4月期までの準備期間を経て本中期経営計画においてグリーンエネルギー施設の開発数を最大化します。

太陽光発電施設

FIT発電所EPC※



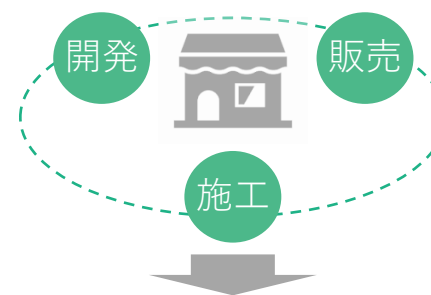
全国展開実績

Non-FIT発電所EPC

関東エリア高圧発電所実績化
低圧発電所開発体制構築

ネットゼロ・エネルギー・ハウス

店舗ユニット



四国・大阪店舗数の拡大

これまでの取り組み

今後の戦略

低圧・高圧両面での
開発進行本格化

エリア内ユニット数拡大
(ドミナント戦略によるシェア拡大)

※ EPCはEngineering（設計）、Procurement（調達）、Construction（建設）の事業の事をいいます

現在進行中の戦略：太陽光発電施設の戦略進捗

- Non-FIT発電所 低圧・高圧両面での開発区画数が伸長
- 組織体制の強化と生産効率の追求を継続中

Green300における取り組み

低圧・高圧両面での開発進行をグリーンエネルギー＆カンパニーの強みである「規格化」をテコに開発・販売のスピードを加速化

重点戦略

	低圧	高圧
Non-FIT	開発体制の構築	関東での実績化
FIT	全国展開の実績 積み上げ	全国展開の実績 積み上げ

エリア戦略

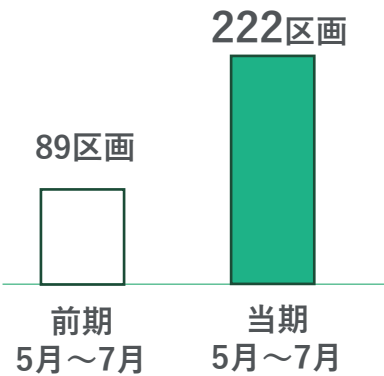
- ①関東
- ②四国
- ③中部（静岡・愛知・三重・岐阜・長野・山梨）

投資計画

	人的 投資	設備 投資	DX 投資	資本 政策
Non-FIT	◎	○	◎	◎
FIT	○	△	△	△

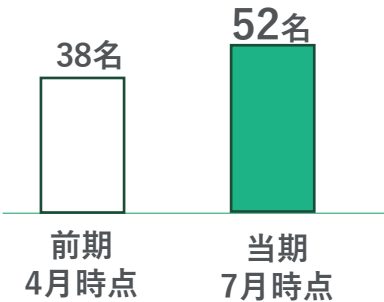
※ ◎は重点投資、○は積極投資、△はニュートラルを意味します

Non-FIT発電所開発数※用地取得ベース



低圧 + 高圧
前年同期比
約2.5倍

Non-FIT組織人員数



DX投資

各種土地データベース
調査連携システム

施工管理システム強化
ANDPAD採用・導入

 ANDPAD

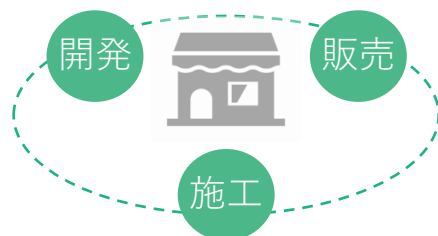
ネットゼロ・エネルギー・ハウスの戦略進捗

- 前期に拡大したユニット体制の軌道化が進み開発仕入棟数が順調に伸長

Green300における取り組み

ドミナント戦略に基づく、エリア内におけるユニット数の拡大及び事業エリアの拡大

重点戦略①：店舗ユニット数の拡大



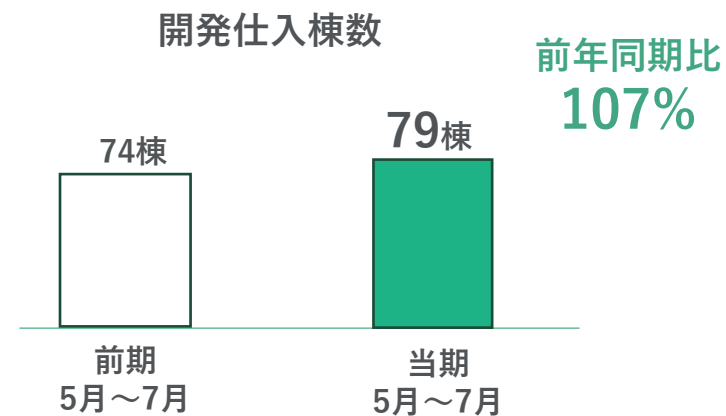
2025年1月現在直営店5店舗

重点戦略②：事業エリアの拡大

- ・ 継続的に四国・大阪店舗数の拡大
- ・ 全国展開は、フランチャイズまたは事業買収により実施

当期は前期までに拡大したユニット・店舗の軌道化に注力

新規入社社員の稼働向上により進行棟数拡大を実現化



ストックビジネス戦略（O&M）

- フロービジネスにおけるグリーンエネルギー施設の開発数最大化によりストックビジネスのコアであるO&M事業における管理数の最大化を図ります。

オーガニックグロース

Green300におけるコア戦略である
フロービジネスにおける
開発数の最大化

太陽光発電施設

ネットゼロ・
エネルギー・ハウス

インオーガニックグロース

自社開発物件以外の管理物件を
M&Aや資本業務提携を経て獲得

M&A

資本業務提携

O&M事業

フロービジネスにおけるオーガニックグロースと
インオーガニックグロースにより
管理数の最大化を図る



太陽光発電のオペレーションと
メンテナンス、自社修繕、費用や発電収支への
補償のスキーム等ワンストップでご提供



新規管理物件獲得：
保険付帯管理プランの開発・販売

3

Appendix

株式会社グリーンエナジー＆カンパニーは2025年5月より、
これまで掲げていた「Purpose」「Vision」「Value」における
最上位経営思想として「クレド」を新たに掲げました。



グリーンエナジー＆カンパニー クレド

私たちの信条・社会に対する約束

<https://green-energy.co.jp/mission/credo/>

Purpose

Vision

Value

サステナブルな
社会の実現を
新しい常識で

Purpose

*Rock on
Green!*



Vision

1000万人の
再エネ事業
創出

Value

Green

個人参加型、
持続可能エネルギー社会
の実現

Governance : 誠心・誠意・誠実に

Rock : 楽しく！仕事も人生も

Engagement : お客様と社会と共に

Execute : ACTION ACTION ACTION

New Challenge : 自分事で積極的に

名称 株式会社グリーンエナジー & カンパニー

代表 代表取締役社長 鈴江崇文

設立 2009年4月1日

資本金 970百万円（資本準備金含む 2025年4月30日現在）

上場証券取引所 東京証券取引所グロース市場（証券コード1436）



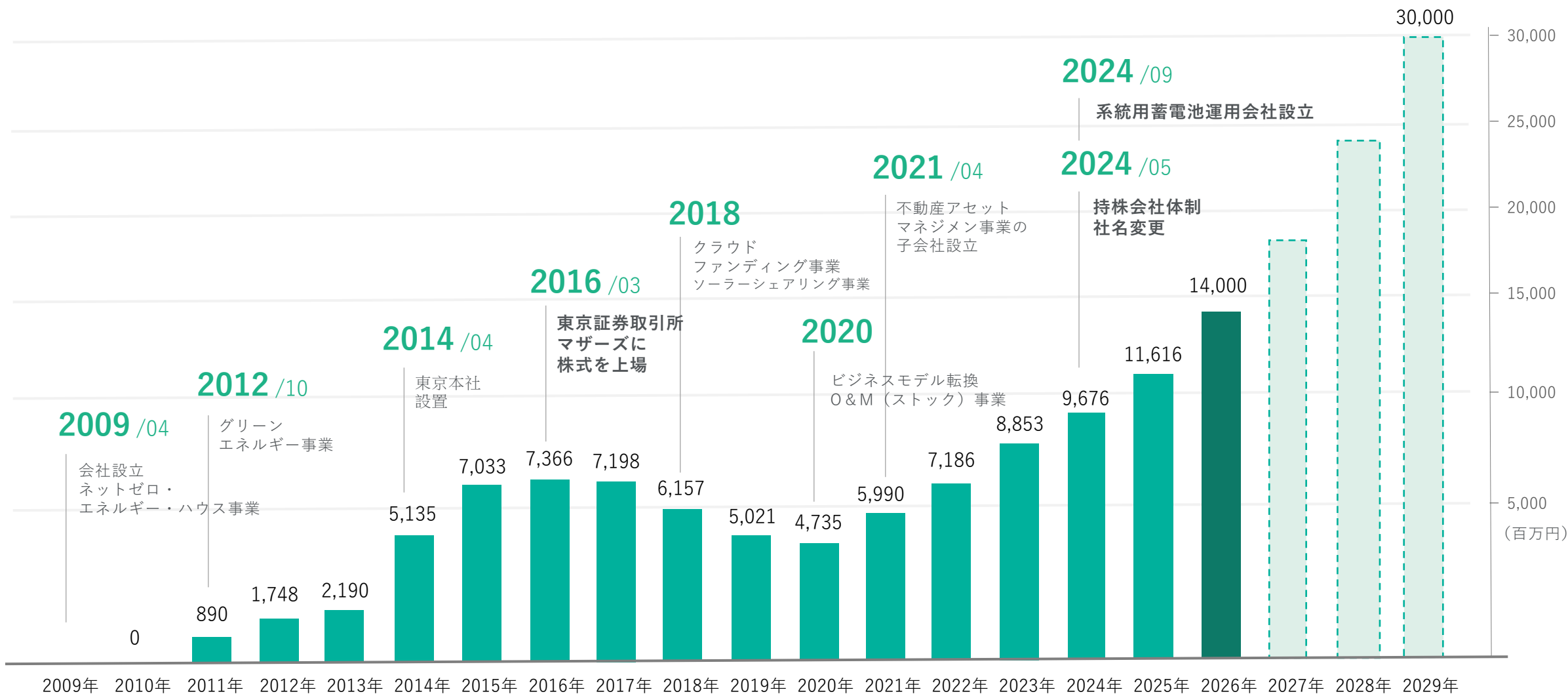
連結売上高 116億円（2025年4月30日現在）

所在地 [東京本社]
東京都港区東新橋1-1-19ヤクルト本社ビル
[徳島本社]
徳島県板野郡松茂町中喜来群恵39-1

事業内容

- ・GXグリーンエネルギー発電施設の開発・販売
- ・GXグリーンエネルギーのコンサルティングおよび商材の販売
- ・再生可能エネルギー事業に係る機器・ソフトウェアの開発
- ・GXゼロエネルギーハウスの開発・販売

設立からの軌跡と2029年までの構想



中期経営計画
Green300

起源 ～Origin～

- 規格化と再エネの掛け算がグリーンエネルギー＆カンパニーの起源になります。



株式会社グリーンエネルギー＆カンパニー 代表取締役社長 鈴江 崇文

1997年：大手ハウスメーカー入社、注文住宅営業を担当
2001年：大手建材メーカーグループ入社、住宅フランチャイズ加盟店の指導を担当
2003年：徳島県のゼネコンに入社、営業推進業務と企業改革を担当
2009年：株式会社フィットを設立
2012年：クリーンエネルギー事業への取り組み
2016年：東証マザーズに上場
2024年：グリーンエネルギー＆カンパニーに社名変更

規格化

- ・ 徳島県の負債を抱えたゼネコンにて、業界不況の中で大改革を断行しました。20億円以上の既存事業をすべて縮小し、新規事業として「規格化」をテーマに、極限まで無駄を削ぎ落とし効率を追求した「規格型住宅事業」に取り組み、経営危機を乗り越える
- ・ 当事業は全国の建設業界で注目される実績を上げる
- ・ 当事業を独立させ、株式会社フィットを設立

再エネ

- ・ 2011年のドイツ視察にて、ソーラーエネルギーなどのエネルギー政策、公共交通機関を中心とした都市デザイン、緑の保護条例など、先進環境対策と快適性が注目される都市、フライブルクに出会う。
- ・ その地域経済活性化と域内循環モデルの原動力が再生可能エネルギーであったことから、このスキームを日本の地域経済循環モデルに活かすことを着想。

再エネ市場における当社の競争優位性（経営の特徴）

- 消費者や投資家として「自分が欲しいと思える商品」を最重要視した商品開発
- 「挑戦の数」「業界構造揺らし」「生産性経営」の3つで商品提供、「挑戦」と「利益獲得」の同時実現を果たす



グリーンエネルギー＆カンパニーのプロダクト

- 太陽光発電施設、ネットゼロ・エネルギー・ハウス等の低圧グリーンエネルギー施設の規格化ノウハウを活かし全国へ展開します。

太陽光発電施設

再生可能エネルギー発電所



営農型太陽光発電所※1



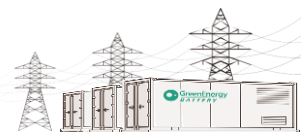
系統用蓄電所

系統用蓄電所※2



系統用蓄電池一括受注サービス

GX-Pack



制御技術・アグリゲーション



ネットゼロ・エネルギー・ハウス

スタンダードモデル アップグレードモデル



「稼働できる」家



「稼いでくれる」家



「シェアする」家



スマート農業

アグリファクトリー



ソーラーシェアリング（施設型）



ソーラーシェアリング（露地型）



※1 営農型太陽光発電所は、農地に太陽光発電パネルを設置し、農業と発電を同時に行う発電所をいいます

※2 系統用蓄電所は、電力系統に接続する大規模な蓄電池をいいます

グリーンエネルギー施設※1開発数

5,232件※2

太陽光発電施設開発数（2025年7月時点）および
ネットゼロ・エネルギー・ハウス※3開発数（2025年7月時点）の合計

※1 グリーンエネルギー施設は、太陽光発電施設とネットゼロ・エネルギー・ハウスの総称をいいます

※2 創業来の会社集計値

※3 ネットゼロ・エネルギー・ハウスは、年間で消費するエネルギー量を実質ゼロ以下にする家（ZEH）をいいます



本参考資料の内容には、将来に対する見通しが含まれている場合がありますが、実際の業績は様々な要素により、これら見通しと大きく異なる結果となりうることをご了承ください。

会社の業績に影響を与えうる事項の詳細な記載は「有価証券報告書」の「事業等のリスク」にありますのでご参照ください。ただし、業績に影響を与えうる要素は「事業等のリスク」に記載されている事項に限定されるものではないことをご留意ください。

本資料・データの無断転用はご遠慮ください。

I Rに関する問い合わせ先：ir@green-energy.co.jp